

## ローリングストーン

Rolling Stone

KUNST ARZT では、初となる永戸萌子（旧姓：粟坂）の個展を開催します。永戸萌子は、身体的に不自由な環境下に自身を置き、そこで触れて感じたことを表現するアーティストです。「FREEDOM (2023)」では、産卵するウミガメの如く、地上を平泳ぎするように進み、「地中の妄想より (2022)」では、等間隔に並んだ稲の如く、単管を組み、その上に板を貼った‘大地’を作り、その穴から植物と見立てた彫刻作品を上下に移動させ、「植える」「育てる」行為を体現しました。本展では、さまざまな自然環境にある石の上にバランスをとって静止する映像作品と、石の上にアンバランスに自立する立体物を配置する作品構想です。

(KUNST ARZT 岡本光博)



## 略歴

- 1998 岐阜県瑞浪市生まれ。
- 2019 チェコのプラハ工芸美術大学に交換留学
- 2020 京都造形芸術大学（現京都芸術大学）美術工芸学科総合造形コース卒業
- 2022 京都市立芸術大学大学院彫刻専攻彫刻専攻彫刻卒業
- 2022 アッセンブリッジ・スタジオ 2022（旧・名古屋税関港寮、愛知）

## 展覧会歴

- 2023 Kyoto Art for Tomorrow 2023 京都府新鋭選抜展「FREEDOM」（京都文化博物館、京都）
- 2021 グループ展「半自動手職」（京都芸術大学、京都）
- 2021 粟坂萌子・中森碧 二人展「エクササイズ」（Gallery COCOTO、京都）
- 2021 京都市立芸術大学 大学院彫刻専攻有志展「ものとかすひと」（千鳥文化 / コーポ北加賀屋、大阪）
- 2021 グループ展「自我像展」（ギャラリーマロニエ、京都）
- 2020 CAF 賞 2020 入選作品展覧会「世界の中心まで掘ってまったもんで、末端で山の稜線を描いてみた。」（代官山ヒルサイドテラス F 棟ヒルサイドフォーラム、東京）
- 2019 個展「吸って、吐いて、留めて、」（ギャラリーマロニエ、京都）

2025年3月18日（火）から23日（日）

12:00 から 18:00

会 場：KUNST ARZT

605-0033 京都市東山区夷町 155-7 2F

問い合わせ



KUNST ARZT 代表 岡本光博

090-9697-3786

kunstarzt@gmail.com

ローリングストーン  
Rolling Stone

アーティスト・ステートメント

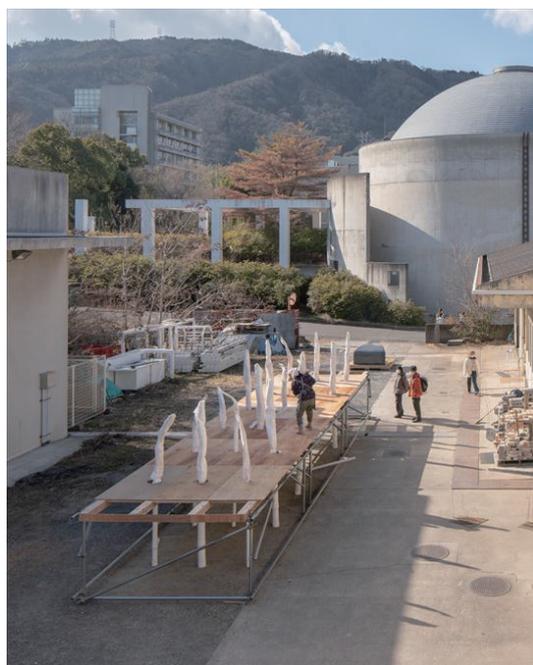
身体ベースで彫刻やインスタレーション、パフォーマンスを発表。  
日常目にしての事象や、繰り返している行為を観察し、  
そこに起きている意味や内容についての新しい解釈を、  
様々な素材に置き換えることで制作を行う。  
身体性を意識した解釈を通して得られる、軽やかな身体像の表現を探っている。



FREEDOM

2023

モニター、スピーカー、メディアプレイヤー、木材ほか  
W730×H1800×D650  
雄大な自然が広がる地上を平泳ぎするように進んでみる。  
自由なイメージとは裏腹に、満身の力で身体を地面から  
引き剥がし、移動する人間に目が留まる。  
私たちにとって真の「自由」とは一体何なのか、  
不自由な身体性を通して問いかける。

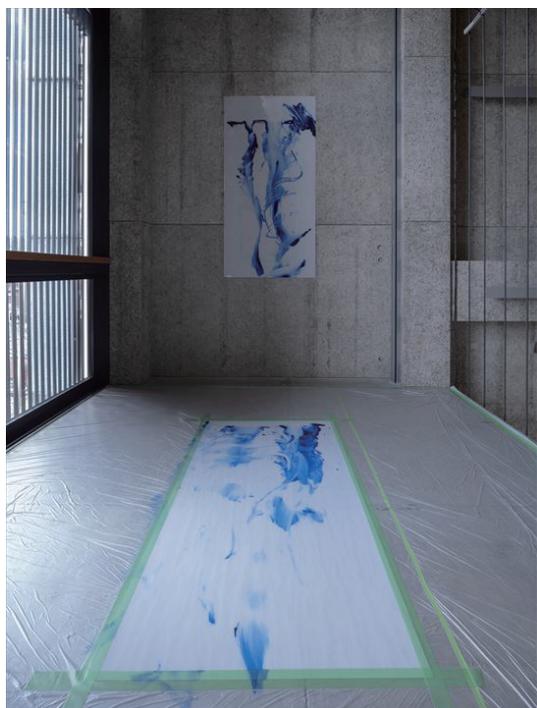


FREEDOM

地中の妄想より

2022

石膏、藁、布、塩化ビニールパイプ、木材他 サイズ可変  
実家の前に広がっていた田んぼの風景が、突然荒地に変わってしまったという自身の心情を発端に作品を展開する。  
私は、稲が等間隔に並んでいるリズム感と成長の速さに興味を惹かれる。その目を見張るような稲の成長する勢いを見ると、誰かが地中の奥底から押し上げているのではないかという妄想が生まれた。この妄想を再現するために単管を組み、その上に板を貼ることでもうひとつの地上と、板下の空間を地中と新たに設定した。板には穴を開け、身体を使って植物と見立てた彫刻作品を上下に移動させることで、植物を「植える」「育てる」行為として体現する。



エクササイズ

2021

塩化ビニール板、アクリル、養生テープ、ビニール他 サイズ可変  
「エクササイズ」展は異なるメディアを扱う2人の作家にとって新しい挑戦である。身体の動作を素材に置き換えた作品制作を行う永戸は、本展では「挟む」行為に注目し、予想もしない身体表情と出会いを目指す。版画作品を制作する中森は、新たな描き画材を導入しハッチングの研究を行う。線を引く過程や刷る過程、また消す過程の反復を通しこれまで以上に自身の身体感覚に近づいた表現の在り方を追求する。  
「挟む」動きの素材への置き換え、ハッチングといった二つの反復行為を重ねた先で、表現の新たな可能性に出会うことこそが本展の目標である。お互いの動きを意識しながら、時にはふたり一緒に…レッツエクササイズ! (DM文章より引用)



幽の寝床

2021

樹脂、塗装、ワイヤーロープ、木、映像 サイズ可変  
身を埋めて入れる大きさの穴を掘って型取りした作品を、階段を降りて見上げてみる。すると天井には、穴を掘り埋まってゆく映像が淡々と流れる。鑑賞者は、穴の中の私と対面することになる。次第に映像の中に映る私の存在が消えていき、まるで幽体離脱をして鑑賞者自身が、穴を掘っている感覚におちてゆく。